

●案件 1 令和 5 年度 の 取組 状況 について

(1) 支援の取り組み状況

(支援の柱 1) 学力の向上

	施策と内容	状況
1	<p><b>学習塾費用助成（後援会）</b>  <b>模擬試験等受験料（後援会）</b>  進学を目的とした学習塾費用助成や模擬試験等受験料に対して町が財団法人青森県立百石高等学校後援会（以下「後援会」）へ補助金を交付。  助成額は、学習塾費用の2分の1、月額上限5千円。  模擬試験等受験は、1回につき1,000円、年6回を上限とする。</p>	<p>○学習塾費用助成 0名  ○模擬試験等受験料 1学年 9名 2学年 11名 3学年 なし</p>
2	<p><b>スキルアップ支援（後援会）</b>  各種検定費用の支援に対して町が後援会へ補助金を交付。  （対象検定）  ビジネス文書実務検定/情報処理検定/珠算・電卓実務検定/家庭科技術検定/漢字検定/英語検定/数学検定等  英検準2級以上は実費支給、それ以外は実費の2分の1</p>	<p>検定名 受験者数（合格率）  ○ビジネス文書実務検定 107名（61%）  ○珠算・電卓実務検定 32名（91%）  ○家庭科技術検定 119名（89%）  ○漢字検定 63名（27%）  ○英語検定 41名（24%）  ○数学検定 9名（11%）</p>
3	<p><b>キャリア教育支援（後援会）</b>  オープンキャンパス参加費用や、進路選択のため学習会費用に対し町が後援会へ補助金を交付。</p>	なし
4	<p><b>新聞購読支援（後援会）</b>  学校設定科目「新聞を読もう」による探究型学習に使用する教材費用を支援のため、町が後援会に補助金を交付。</p>	学校の新聞購入等に係る費用を支援

(支援の柱2) 通学利便性の向上

	施策と内容	状況
1	<p><b>町民バス運行(町)</b></p> <p>百石高等学校の通学需要へ対応するため町民バスを運行。令和4年度からデマンド型乗り合いバスの運行が開始したことに伴い、東線、南線は廃止したが、高校通学需要のために朝1便、夕1便を運行している。</p>	北線 2便
2	<p><b>バス通学費激変緩和補助金(町)</b></p> <p>令和4年度からデマンド型乗り合いバスの運行が開始したことに伴って、町民バスの2路線が廃止となるため、当該路線を利用していた生徒に対する激変緩和措置としてバス定期券購入費の補助を行う。</p>	なし

(支援の柱3) 地域との連携促進

	施策と内容	状況
1	<p><b>高校生レストランの支援(後援会)</b></p> <p>高校生レストランの運営に対し町が後援会へ補助金を交付。町商工観光課担当。</p>	実施なし
2	<p><b>百石まつりの出演</b></p> <p>地域のイベントを盛り上げるため、百石まつりの「流し踊り」と「よさこいソーラン」へ高校生が参加。</p>	参加なし
3	<p><b>森の感謝祭への出店</b></p> <p>調理クラブのお弁当販売</p>	完売
4	<p><b>町長とのフレッシュトーク(町)</b></p> <p>1年生と町長が「おいらせ町」をテーマに懇談。                      テーマ①：町をきれいにしようプロジェクト                      テーマ②：大人や子供、誰でも気軽に集まり、楽しめる場所を作る                      テーマ③：おいらせ町の魅力を伝える</p>	2月27日開催

(支援の柱4) 効果的な情報発信

	施策と内容	状況
1	<p><b>広報おいらせ紙面での高校生による記事作成(町)</b></p> <p>町広報誌で高校生が作成した記事を掲載した。</p>	広報おいらせ1月号に掲載
2	<p><b>Instagram運営(町)</b></p> <p>高校の知名度向上と効果的な情報発信を目的に令和3年8月に開始。高校に関する情報を発信した。</p>	・フォロワー 207人 ・記事投稿 76

(2) 令和5年度百石高等学校支援事業費補助金(町補助金)の実績

	項目	実績額	内容
1	スキルアップ支援	416,940 円	検定名 受験者数 (合格率) ○ビジネス文書実務検定 ・ 2級ほか 107名 (61%) ○珠算・電卓実務検定 ・ 2級ほか 32名 (91%) ○家庭科技術検定 ・ 1級ほか 119名 (89%) ○漢字検定 ・ 準2級ほか 63名 (27%) ○英語検定 ・ 準2級ほか 41名 (24%) ○数学検定 ・ 準2級 9名 (11%)
2	キャリア教育支援	101,520 円	○1 学年総合的な探求の時間 講師謝金 講師：株式会社バリューシフト 木村 優哉 氏 栗林 志音 氏 八戸工業大学感性デザイン学部 沼口 日南 氏 千葉 れいか 氏 ○社会人講和 講師謝礼金 講師：猪俣 美香子 氏 外9名 ○2 学年進路講演会 講師謝礼金 講師：一般社団法人 HASSYADAIsocial 森本 瑛 氏
3	新聞購読支援	118,050 円	○購入新聞 (デーリー東北、東奥日報、毎日、朝日、読売)
4	学力向上支援	367,800 円	○学習支援システム Classi 295人分助成 ○学習塾費用助成 0名 ○チラシ印刷 1,500枚分 ○模擬試験等受験料 ・ 1年9名、2年11名 延べ20人分
	合計	1,004,310 円	

●案件 2 令和 6 年度 の 取組 について

(1) 支援の予定

(支援の柱 1) 学力の向上

	施策と内容	説明等
1	学力向上支援（後援会）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習支援システム助成 学習支援システム「Classi」を全生徒へ配布 [助成額] 1人あたり 3,980 円のうち 1,000 円 1,000 円×257 人=257,000 円</li> <li>・ 大学進学等を目的とした学習塾などの費用支援 に対して町が後援会へ補助金を交付。 [助成額] 学習塾等費用の 2 分の 1、<u>年 1 人上限 6 万円とする。令和 6 年度から大学進学だけで なく、公務員学校等にも利用可能に拡充。</u></li> <li>・ 進学率の向上を図るため、令和 4 年 4 月から「模 擬試験等受験料」の助成を追加。 [助成額] 1 回 1,000 円、年 6 回を上限。</li> </ul>
2	スキルアップ支援（後援会）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種検定費用の支援に対して町が後援会へ補助金 を交付。 (対象検定) ビジネス文書実務検定/情報処理検定/珠算・電卓 実務検定/家庭科技術検定/漢字検定/英語検定/数 学検定等 英検準 2 級以上は実費支給、それ以外は実費の 2 分の 1。<u>令和 6 年度から検定に合格した場合は、 残りの費用も補助するように拡充。</u></li> </ul>
3	キャリア教育支援（後援会）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オープンキャンパス参加費用や、進路選択のため 学習会費用に対し町が後援会へ補助金を交付。</li> </ul>

(支援の柱 2) 通学利便性の向上

	施策と内容	説明等
1	町民バス運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和 4 年 4 月からの利用状況を踏まえた、見直し 等の実施。(通学需要へ対応するため町民バスを運 行。高校通学需要のため、北線を行き帰り 1 便ず つ残している。)</li> </ul>
2	百石高等学校バス通学費 激変緩和補助金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和 4 年 4 月 1 日からの町民バス東線・南線の廃 止に伴い、令和 2 年～4 年に入学した生徒を対象 に 3 年間限定で、バス通学費の激変緩和措置。</li> </ul>

### (支援の柱3) 地域との連携促進

	施策と内容	説明等
1	町長とのフレッシュトーク	・生徒と町長が決められたテーマを基に懇談。

### (支援の柱4) 効果的な情報発信

	施策と内容	説明等
1	広報おいらせ紙面での高校生による記事作成	・広報おいらせ11月号以降の掲載を予定
2	インスタグラム運営	・高校の知名度向上と効果的な情報発信を目的に、高校に関する情報を発信。

### (2) 町との連携事業

	施策と内容	説明等
1	魅力発信事業	・町の魅力発信事業として、百石高校生を中心に「ワカモノ」目線で住みたい、住み続けたいと思える町の魅力を動画として町内外に向けて情報発信を行うことを目的に「LOVE おいらせ」プロジェクトを実施中。令和6年度は2年目。成果発表会を令和6年10月にイオンモール下田西コートにて開催予定。
2	CM大賞応募作品作成事業	・青森朝日放送主催のふるさと自慢わがまちCM大賞に応募する作品を魅力発信事業に参加している高校生が作成中。

## ●案件3 今後の取組について

### (1) 高校魅力化コーディネーター（地域おこし協力隊）の募集

今年度、地域おこし協力隊員の募集を行い、11月以降の着任を予定している。

### (2) 周辺中学校へのチラシの配布

例年実施している近隣中学校へのPRチラシを作成し、10月頃配布を予定している。

## 参 考) おいらせ町百石高等学校支援方針

令和元年 11 月 策定  
おいらせ町政策推進課

### おいらせ町百石高等学校支援方針

#### 1. 概 要

地域にとって存在意義の大きい青森県立百石高等学校(以下、「百石高校」)の存続を目指し、魅力アップを図る支援策についての方針を示すものです。

#### 2. 背 景

平成 28 年 8 月 3 日に「青森県立高等学校教育改革推進計画」「基本方針」が策定され、平成 30 年度以降の県立高校再編等に関する基本的な考え方が示されました。平成 29 年 7 月にこの方針に基づき、具体的な学校配置等の計画となる「第 1 期実施計画」が示され、5 年間で学級数の削減や学校の統廃合を図っていくこととされております。

当町内にある百石高校は、「第 1 期実施計画」においては統廃合の対象とされていないものの、中学校卒業予定者数が減少していく中で存続の見通しが不透明な状況となっております。また、令和 5 年度から始まる「第 2 期実施計画」の内容は現時点で示されておらず、予断を許さない状況であることから、町として学校を存続させるための支援を行っていくこととし、「おいらせ町百石高等学校魅力アップ推進協議会」を設置し、支援策を協議してきました。

##### (1) 今後心配されること

##### ア) 県の第 2 期実施計画における統廃合の可能性

第 1 期実施計画 (H30～R4) においては、百石高校の統廃合は回避されたものの学級数が 1 減となりました。第 2 期実施計画期間では上北地区全体で 2～3 学級が減となる見込みであり、百石高校の入学者数によっては、学級数がさらに 1 減となる可能性があります。仮に、1 学級減少した場合は普通科が 1 学級となるため、次の段階では統廃合も考えられることとなります。

「青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針」(要旨抜粋)

(2 学級規模の地域校)

○入学者数が 1 学級規模の募集人員である 40 人以下の状態が 2 年間継続した場合、原則として 1 学級規模とします。

(1 学級規模の地域校)

○募集人員に対する入学者数の割合が 2 年間継続して 2 分の 1 未満となった場合、当該高校の所在する市町村等と協議する。

##### イ) 地域の衰退

地域から高等学校が失われれば、若者や子育て世代の流出、U I ターン者の減少、投資の冷え込み、地域経済の減速など人口減少のスパイラルに陥り、地域の衰退につながります。

### 3. 支援の目的と方向

#### (1) 達成したい目標

百石高校が将来にわたって存続するための「魅力向上」

#### (2) 課題と支援の柱



### 4. 具体的支援策

#### **支援の柱 1** 学力の向上

高校生の本分は学習であり、義務教育の普通教育を基盤としつつ大学進学を含め、社会に出るための能力を身に付けていくことが目的とされています。学力の向上は第一義的には学校や県教育委員会の責任において実施されるものですが、大学進学等を希望する生徒に対して学習支援を行うことで、幅広い生徒の入学と学校全体の学力向上を目指します。

##### 【具体的施策】

- ・ 学習塾費用等支援
- ・ 模擬試験費用支援
- ・ 進学実績のPR 等

#### **支援の柱 2** 通学利便性の向上

進学する高校を選択する上で、通学のしやすさは非常に大きな要因となります。第一には、在学生の多くを占めるおいらせ町内からの通学利便性向上を図ります。また、第1期実施計画に基づき近隣の県立高等学校が閉校となる見込みであり、当該地域からの入学希望者も想定されることから、町外からの通学利便性向上についても検討することとします。

#### 【具体的施策】

- ・町内公共交通の利便性向上
- ・近隣市町村からの通学利便性向上促進
- ・公共交通のネットワーク化 等

### 支援の柱3 地域との連携促進

地域の特色を生かした授業や活動は高校自体の魅力を高めるものであるとともに、高校生と地域とが連携することによって、地域を我が事として捉えることができる意識の醸成が図られます。このような観点から、百石高校を地域が支援する取り組みや地域と連携する取り組みを促進し、同校の魅力向上を図り、同時に地域を知り地域を愛する人材を育むことを目指します。

#### 【具体的施策】

- ・食物調理科の支援と連携の促進
- ・町民が指導者となる活動の推進
- ・地元雇用の確保推進 等

### 支援の柱4 効果的な情報発信

学力向上や進路の状況など、イメージアップにつながる取り組みを効果的な方法で情報発信することで、多くの方に百石高校を知ってもらい認知度を高め、同校のイメージアップを図ります。

#### 【具体的施策】

- ・就職実績や進学実績の情報発信
- ・インターネット、SNSの活用
- ・OB／OGの活躍を発信
- ・マスコミの活用
- ・町広報誌での情報発信 等

## 5. 期間と優先順位

地域活力の維持を目的とした町総合戦略と同様の目的を有する施策であることから、町総合戦略の期間と同じ5年間（R02～R06）を目安とし、限られた資源で効果的に実施するために優先順位を確認しながら展開することとします。

○早急に取り組むこと（1年以内に開始）

青森県が令和3年度から「第2期実施計画」策定に取り組む予定であることから、令和2年度入学希望者数に直接働きかける取り組み。

○2次的に取り組むこと（3～5年以内に開始）

比較的緊急性の低い取り組みや、長期間かけて検討すべき取り組み。

6. 推進体制と進め方

個別具体的な施策の実施計画については、毎年協議して推進します。また、関係団体と行政とが連携し、PDCAサイクルに基づき見直しを行うことで、より円滑な支援を図ります。

